



みはる野の皆様 初めまして。
しっぽ村代表の深津彰詞です。

今回は「ペットの災害対策」を題材としたお話をさせていただきます。

しっぽ村は東日本大震災・熊本地震・熱海豪雨災害と被災直後の現場でペットと飼い主さんの支援を行ってきました。

予期せぬ災害に遭った時、家族にの一員であるペットの安全を守ることができるのは飼い主さんです。

日常と大きく異なる状況下においても、平時からの備えと知識で回避できるリスクは少なくありません。

災害が起こる前に、飼い主さんが出来る事を、私の経験からお話しさせていただきます。

先ず、発災時に大切な事はご自身の「身の安全」を確保する事です。地震災害の場合であれば、机の下に身を隠す等の行動を取られて下さい。安全が確保出来た後、ペットと一緒に、避難施設へ同行避難をしましょう。

厚木市では災害時ペットと一緒に避難する事が出来ませんが、ペットと一緒に避難生活出来る避難所の設置は不足しています。厚木市に(畜犬)登録されている犬の数だけでも約 12,000 頭いるのですが、避難してくる犬猫のケージや、ペットと一緒に車中泊できる場所の確保は出来ていません。

平時から予め、何かあった時にペットを預かって貰える方を探しておく事も大事です。災害の規模や種類にもよりますが、少しだけ遠方のご知人や親戚等が好ましいかもしれませんね。公的機関だけを頼るよりも、飼い主さんが備えられる事を考えてみる様にして下さい。

それから、熊本地震災害での記録の一つに、被災した地域で保健所等の行政機関に保護された猫の数は 1400 頭以上とあります。

しかしながら、飼い主さんが判明し無事に返還された猫は 5 頭だけでした。

返還された猫の判別の手がかりとなったのが「マイクロチップ」でした。

一部の動物取扱業者には既にマイクロチップの装着が義務化されていますが、災害現場等の混乱で逸走してしまったペットが保健所や動物保護施設に保護された場合、

マイクロチップの装着は飼い主さんにとって大変有効な備えとなります。

さらに、平時から出来る大切な取り組みの一つが、地域の良好なコミュニケーション(コミュニティ)作りです。

災害時の避難先も同じ場所となりますので、普段からのお付き合いが助け合いに繋がるきっかけとなる事は言うまでもありません。

飼い主さん同士のネットワークならば、なおさら心強い事でしょう。

水や食料等の配給の列に並ぶにも、ペットと一緒にでは難しい場合もあります。

飼い主さん同士が助け合うことで、少しの時間ペットを見てもらう事も可能です。

災害時の避難施設では、飼い主さん同士が集まり、お世話をする場所や、糞尿処理の方法等を話し合い施設管理者に要望していくようにしましょう。

人数、頭数が多いほど声は大きな要望となります。

最後に、**災害時のペットの持ち出し備品の確認**です。避難施設では、人と同様にペットも緊張状態にあり、普段のフードを食べれないケースも多く見られました。おやつ感覚で食べる高カロリーの液状フードやミルク等の嗜好性の高い物もご準備頂けると良いかと思えます。



ケージや水槽等で対外的にも安全が確認出来れば、多くのペットは避難可能ですが、エキゾチックアニマル等のフードを入手する事は極めて困難となります。

爬虫類等をペットとして飼われている皆さんはフードの備蓄もお忘れなく！

災害時は身の安全を確保し、ペットと一緒に避難施設へ同行避難しましょう。

市で行う、安否確認にもご協力下さい。

ご自宅での避難が可能な場合にも、避難施設へ足を運び、最新の情報や配給を受けるようにして下さい。

災害時は私たちしっぽ村も全力で支援活動を行います。可能な限りの保護受入にも対応させていただきます。

さて、簡潔にまとめさせていただきましたが、今回のお話が少しでもみはる野の皆様へご参考になりましたら幸いです。

しっぽ村 深津